

平成29年度 中国地方の防災に関する連絡会の取り組み報告

・複数機関の連携訓練の実施について

(中国地方整備局)

②複数機関の連携訓練の実施について

H30年度 ◇「複数機関の連携訓練の実施」に向けた検討

来年度実施予定の連携訓練は以下のような形式にて行うことを想定。

◇想定する災害

- 大規模地震災害(南海トラフ巨大地震等)における発災後～72h(3日間)を想定

◇参加機関

- 中国地方の防災に関する連絡会の参加機関(51機関)

◇訓練の形式

- DIG訓練(Disaster(災害)Imagination(想像力)Game(ゲーム)の頭文字)

◇実施内容・進行方法

- ワークショップ形式の図上訓練で、全体進行役・グループ進行役によって訓練が進められます。
- 全体進行役から、対象とする災害の様相の状況説明を行い、グループ討議テーマを与えます。
- 討議テーマに関して、参加者が図面等を囲み、その場面で取るべき対応などについてグループ内で意見を出し合い、結果をまとめて、発表します。

◇目的

- 地域別(山口県・広島県・岡山県を被災想定とした訓練、山陰側は応援計画訓練)
- 時系列(初日・2日目以降といった初動対応を中心とした訓練)
- 行動計画(関係機関毎のポジションを反映した訓練)

②複数機関の連携訓練の実施について

H30年度 ◇「複数機関の連携訓練の実施」に向けた検討

来年度実施予定の連携訓練の方式について(案)

○情報伝送・集約訓練【初動対応方式】

■概要

初動から復旧(発災直後～72h)のタイミングでの通信、被災情報の共有時に備えて通信訓練を実施する

■ポイント

- ・双方の連絡可能手段と優先順位を取り決め、初動、応急、復旧、復興の段階に応じた訓練を行う。
- ・どんな情報を確認し、どう対処すべきか事前に協議し、誤情報に惑わされないレベルに訓練する。

■主な訓練メニュー

- ・中防連関係機関等との通信手段の確保
- ・中防連関係機関等との被害情報共有
- ・協会や同業他社との調整、代替調達など



参考:国土交通省 九州地方整備局 南海トラフ巨大地震を想定した地震・津波防災訓練(H28.11)

○個別テーマごとの連携訓練【応急対策・復旧方式】

■概要

大規模災害発生時の復旧に係る重要な活動項目(道路啓開、航路啓開など)をテーマとして、連携訓練を実施する。

■ポイント

- ・道路・港湾施設管理機関における啓開活動と、道路・港湾施設の利用者となる機関(自衛隊、警察、ライフライン事業者等)のニーズを共有し、関係機関が情報共有し意見交換を行う。

■主な訓練メニュー

- ・道路啓開の説明、航路啓開の説明
- ・道路・航路利用者等の啓開活動におけるニーズ把握
- ・道路施設・港湾施設管理者と道路利用者等機関との情報共有に関する検討



参考:国土交通省 四国地方整備局 四国南海トラフ地震対策戦略会議 合同演習(H27.5)